

1. 平成30年度の野生鳥獣による農林業被害の発生状況と傾向について

1 概要

(1) 農林業被害の推移

山口県における野生鳥獣による農林業被害は、平成22年度をピークに減少傾向にあります。平成30年度の被害金額は、対前年度比1%増の4億7千5百万円となりました。

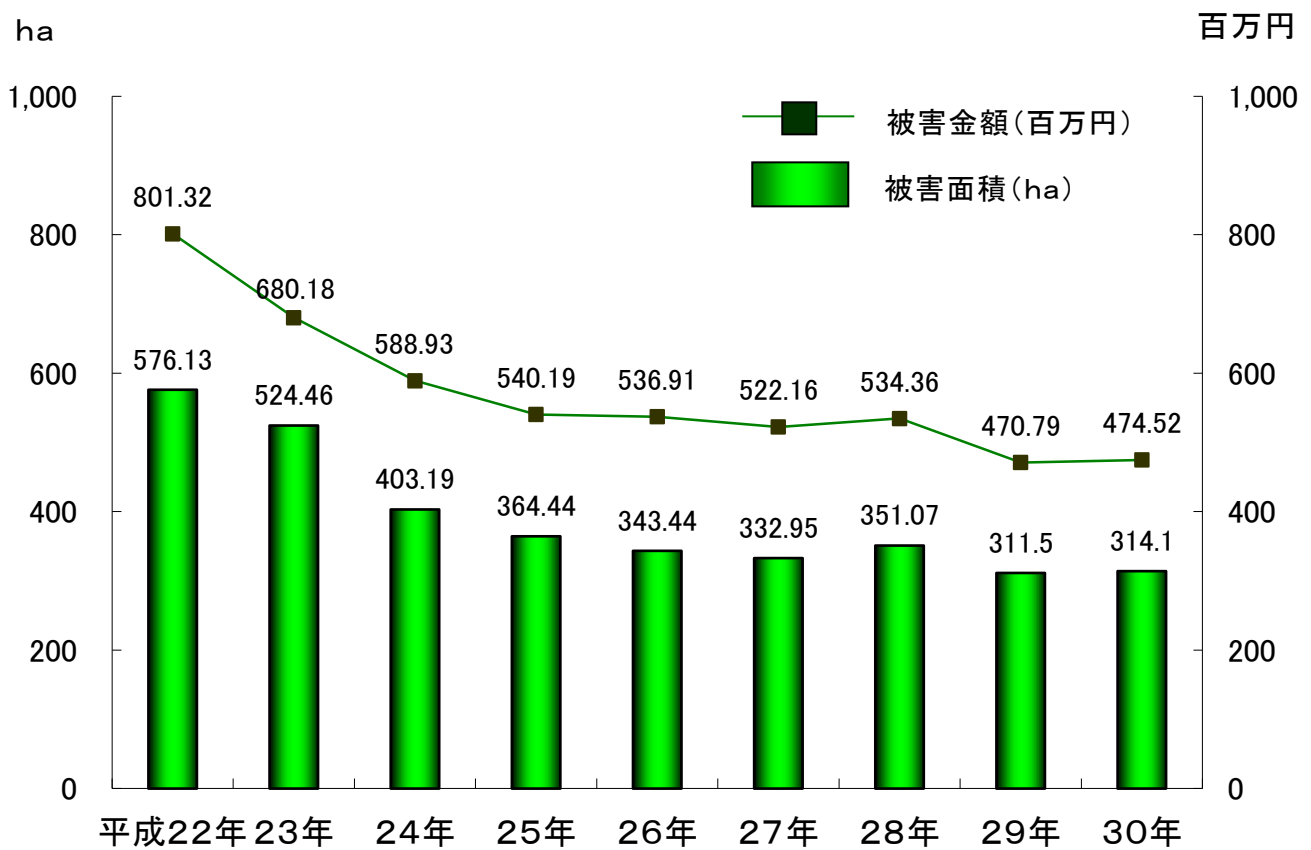


図-1 被害面積及び被害金額の推移（鳥獣被害全体）

(2) 鳥獣別・作物別被害の内訳

平成30年度の被害金額を鳥獣別に前年度と比較すると、イノシシは増加し、サル及びシカについては被害が減少しています。

鳥獣別の被害金額は、獣類が約4億2千3百万円（全体の89%）、鳥類が約5千1百万円（全体の11%）となっています。

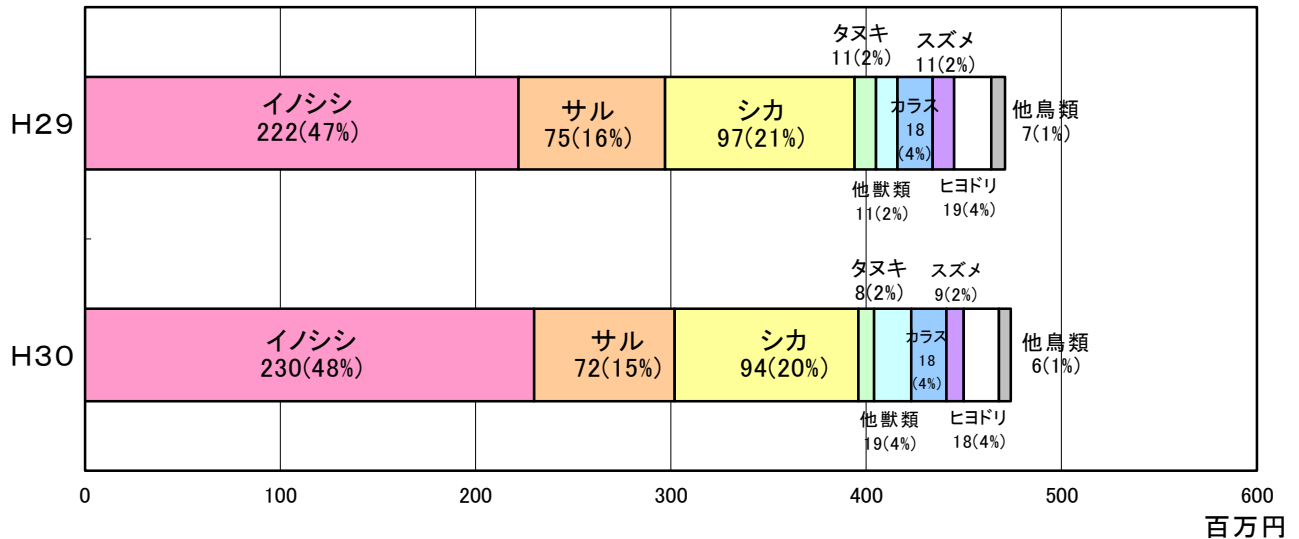


図-2 鳥獣別の被害金額

作物別に比較すると、水稻が4割を占め、果樹の被害が増加しています。

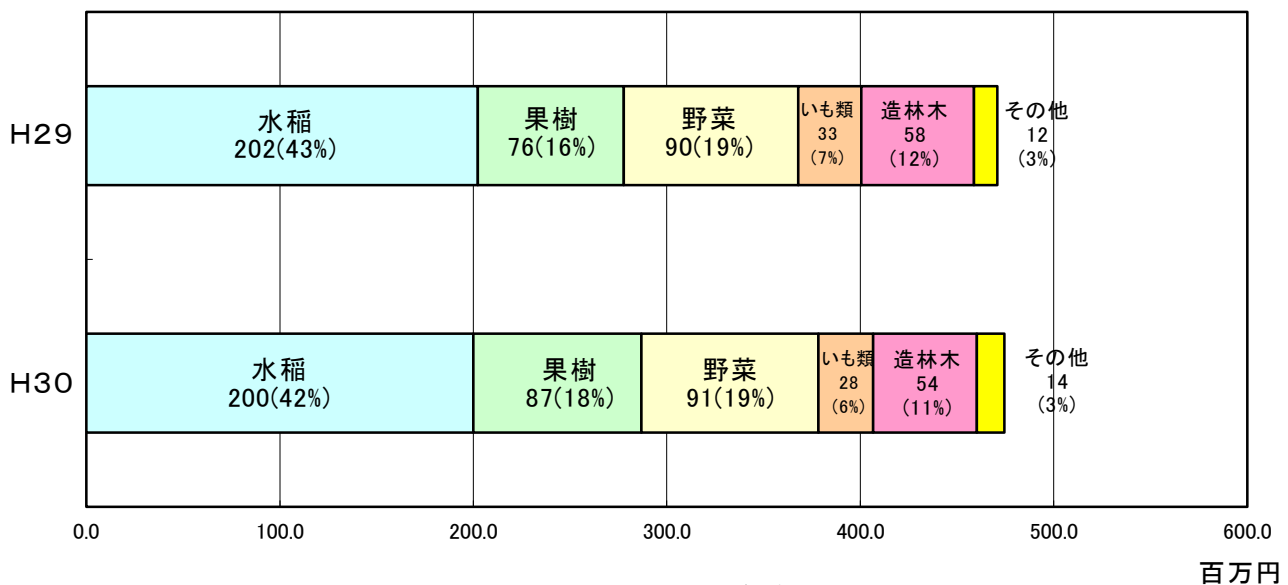


図-3 作物別の被害金額

2 獣類別の被害状況

(1) イノシシ

イノシシによる農林業被害は、平成29年度に減少しましたが、平成30年度は対前年度比4%増の2億3千万円となっています。

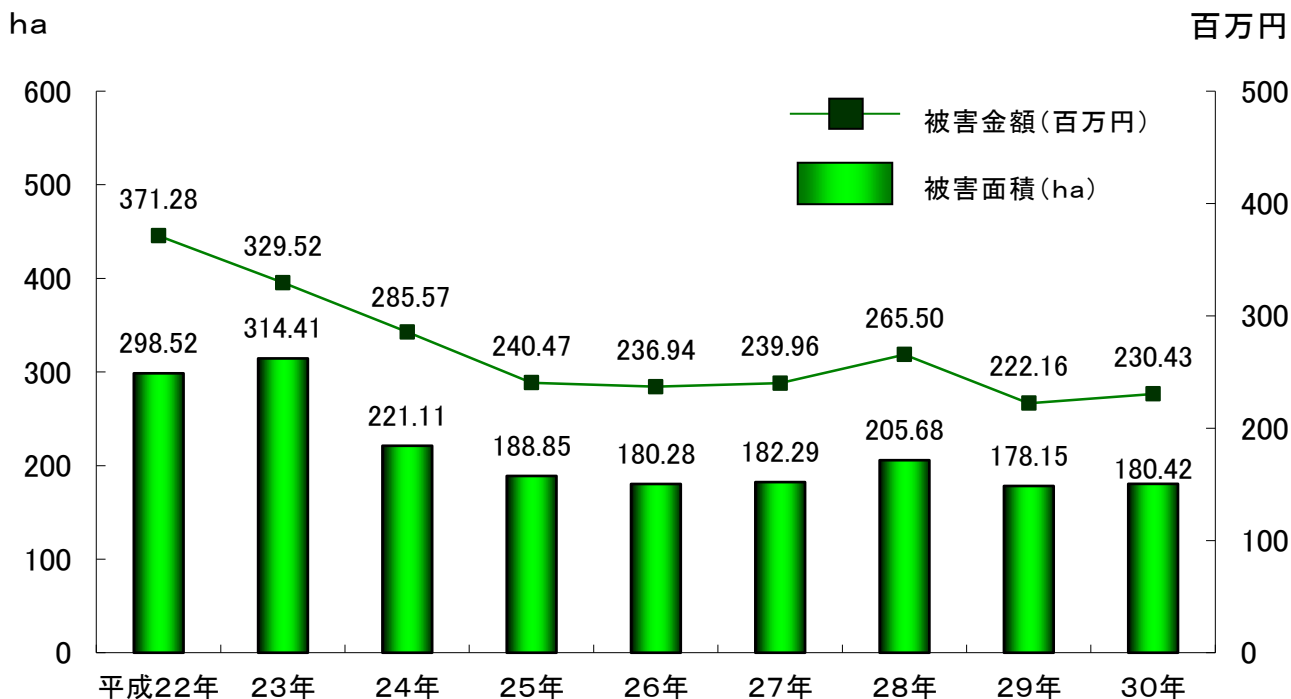


図-4 被害面積及び被害金額の推移 (イノシシ)

被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合は4割強で推移しており、鳥獣による農林業被害の中で、最も深刻な影響を及ぼしています。

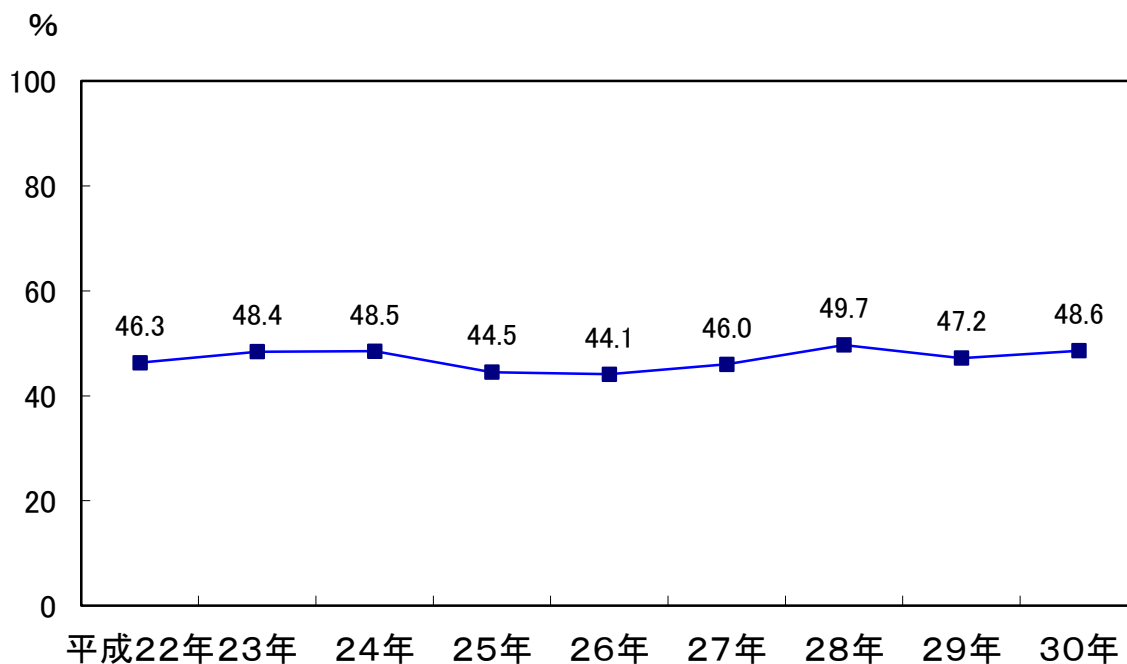


図-5 被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、水稻が約1億5千万円と最も高く、被害金額全体の65%を占めており、次いで果樹、いも類、野菜の順になっています。

百万円

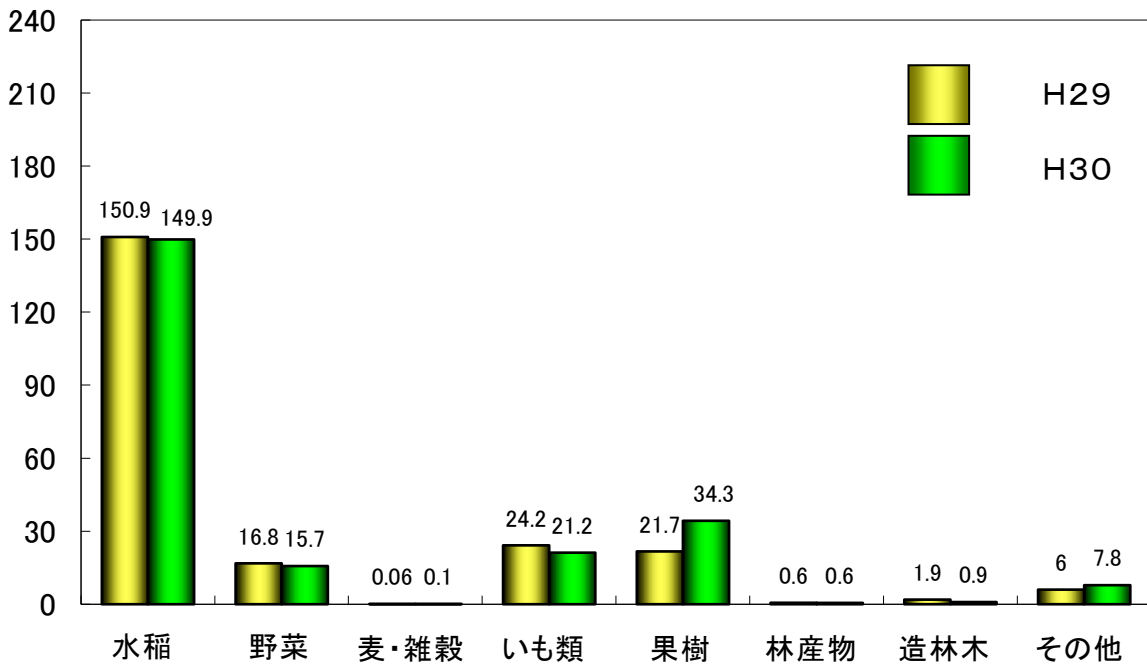


図-6 イノシシによる作物別被害金額

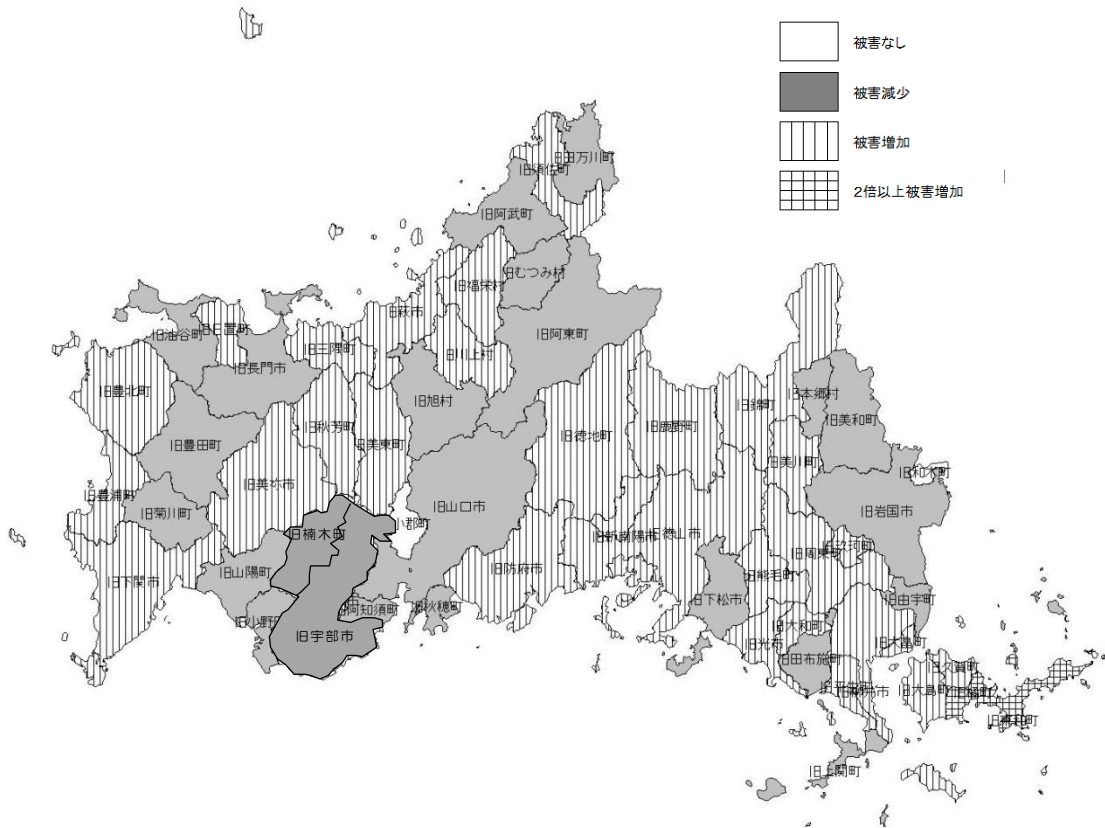


図-7 イノシシ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

(2) サル

サルによる農林業被害は平成25～27年度にかけて横ばい傾向にありましたが、平成28年度から再び被害が減少し、さらに平成30年度は、対前年度比4%減の7千2百万円となっています。

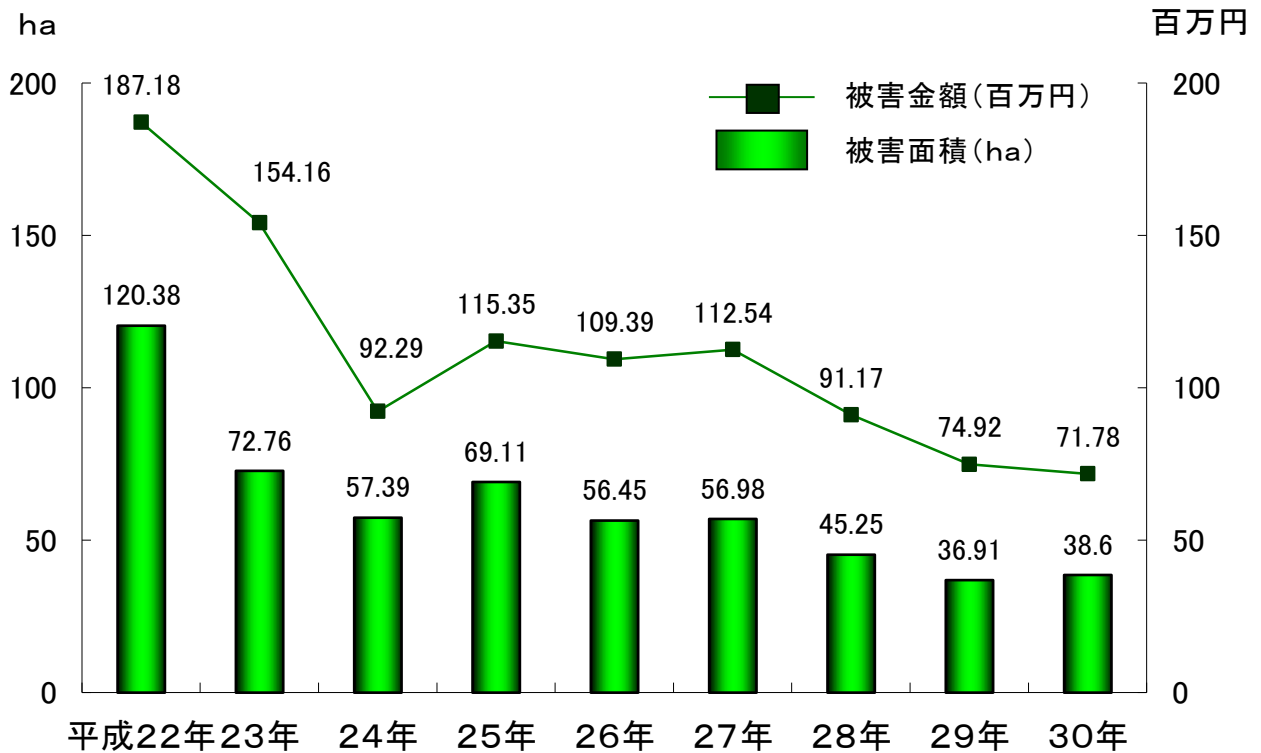


図-8 被害面積及び被害金額の推移 (サル)

被害金額全体に占めるサルの割合は、近年減少傾向にあり、平成30年度は15%を若干下回りしました。

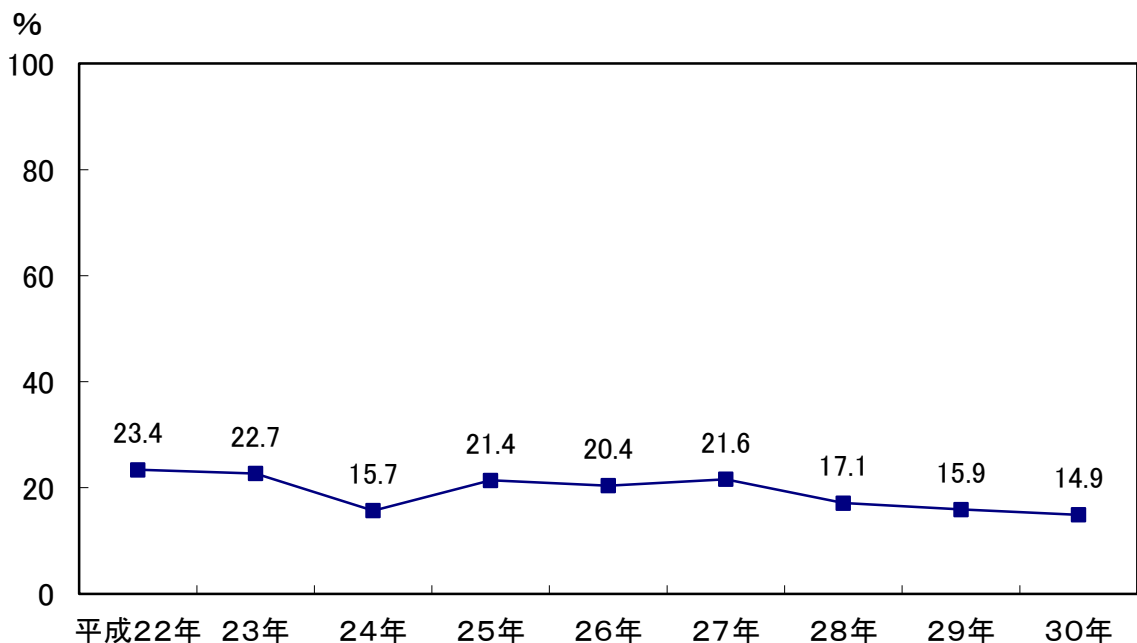


図-9 被害金額全体に占めるサル被害の割合の推移

作物別の被害金額では、野菜が4千万円と最も高く、被害金額全体の56%を占めており、次いで果樹、いも類、水稲の順になっています。

百万円

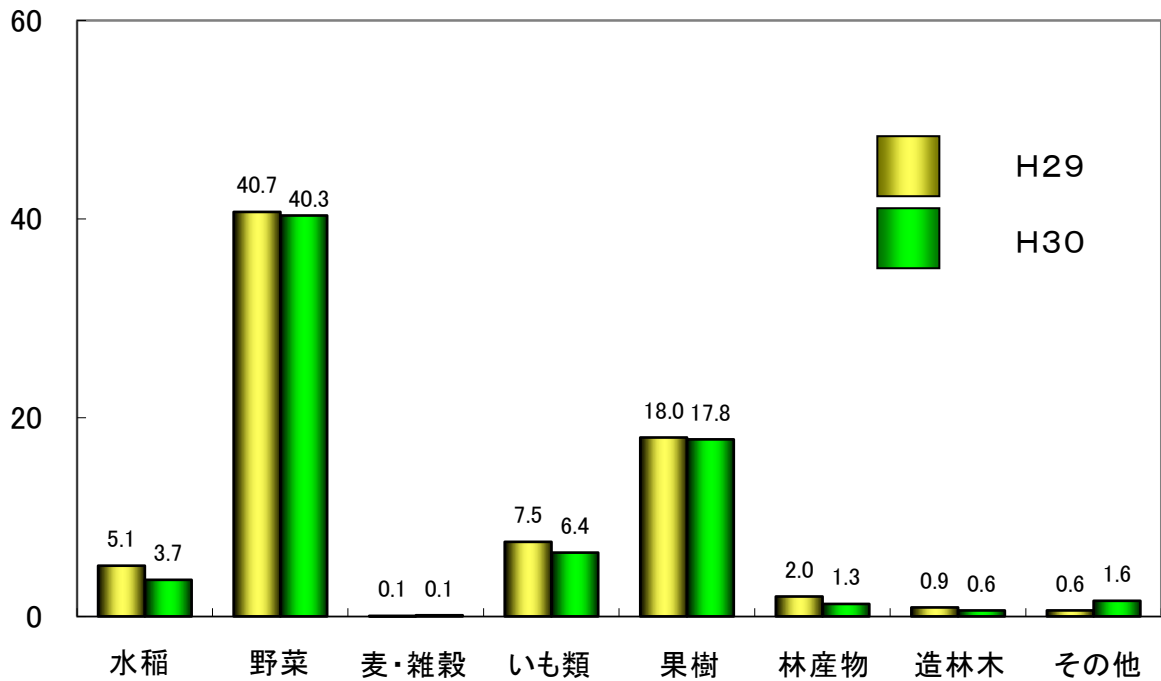


図-10 サルによる作物別被害金額

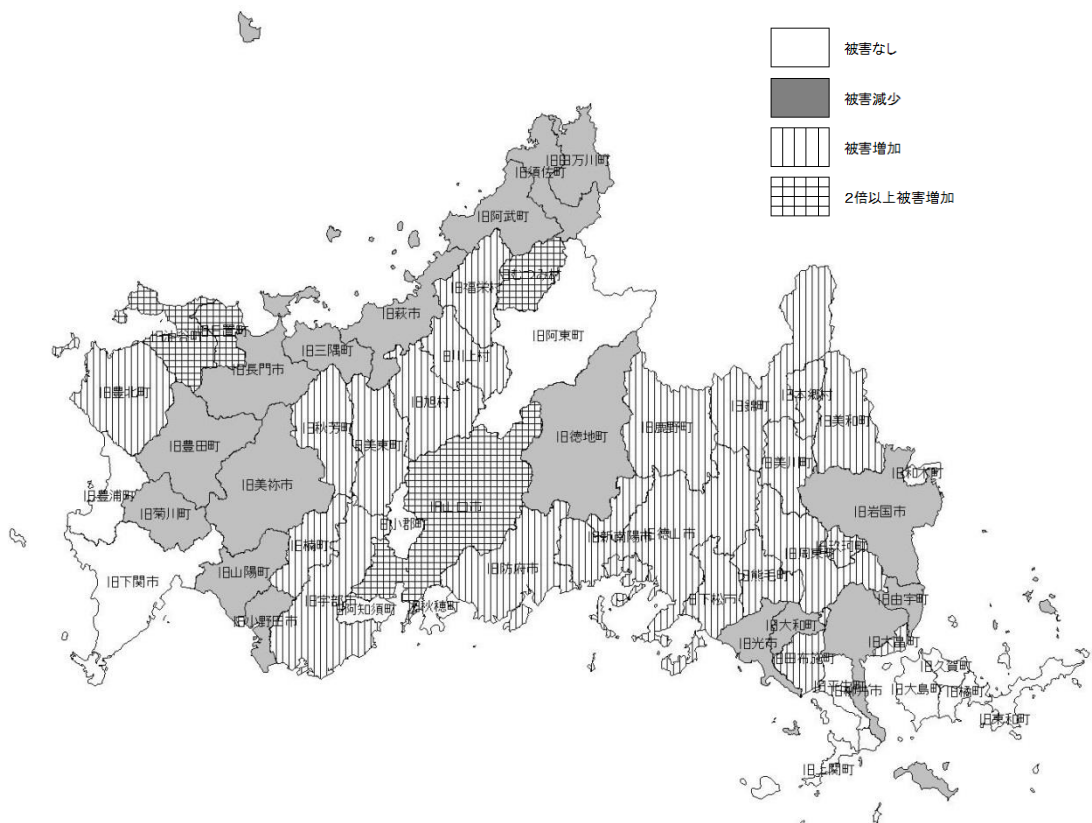


図-11 サル被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

(3) シカ

シカによる被害は増加傾向にありましたが、平成30年度は対前年度比3%減の9千4百万円となっています。

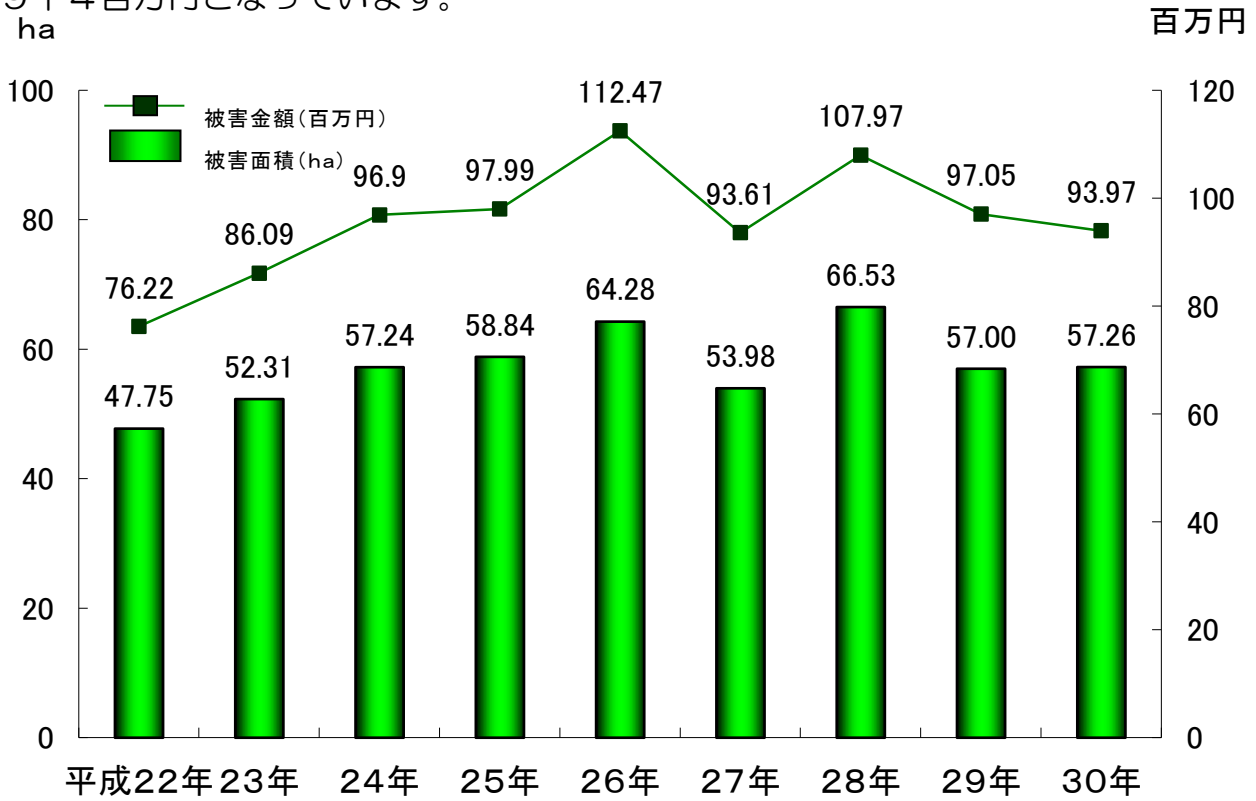


図-12 被害面積及び被害金額の推移 (シカ)

被害金額全体に占める割合は近年20%前後で推移しています。

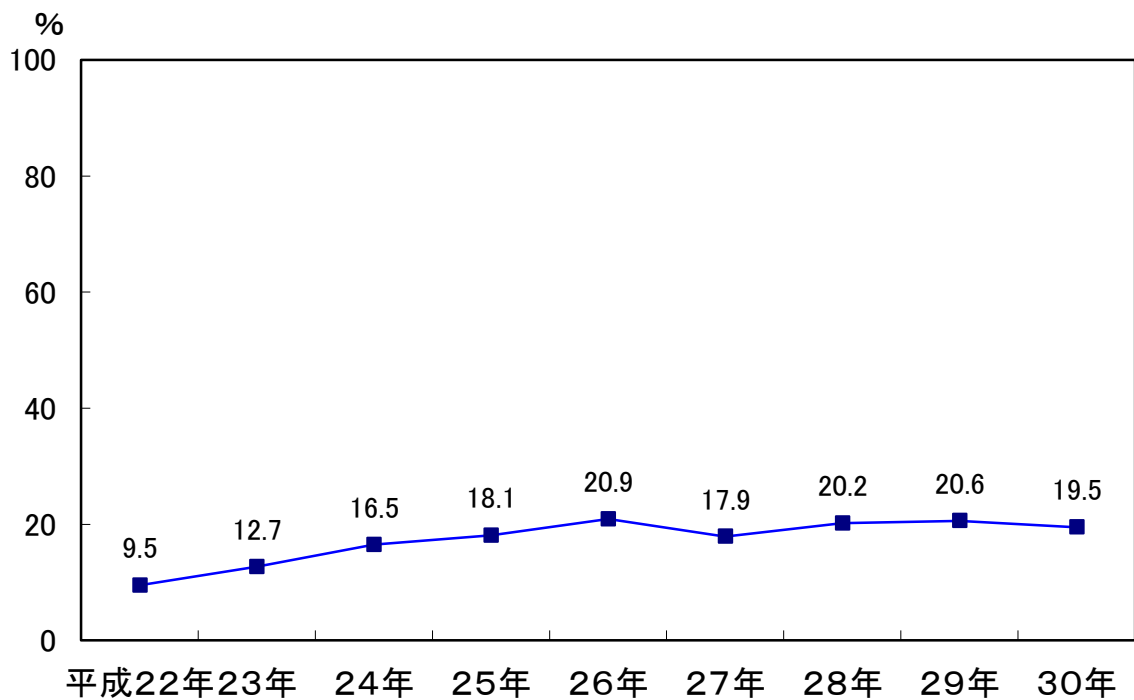


図-13 被害金額全体に占めるシカ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、角コスリ等による造林木への被害が最も大きく全体の56%を占めており、次いで水稲・野菜・果樹の順になっています。

百万円

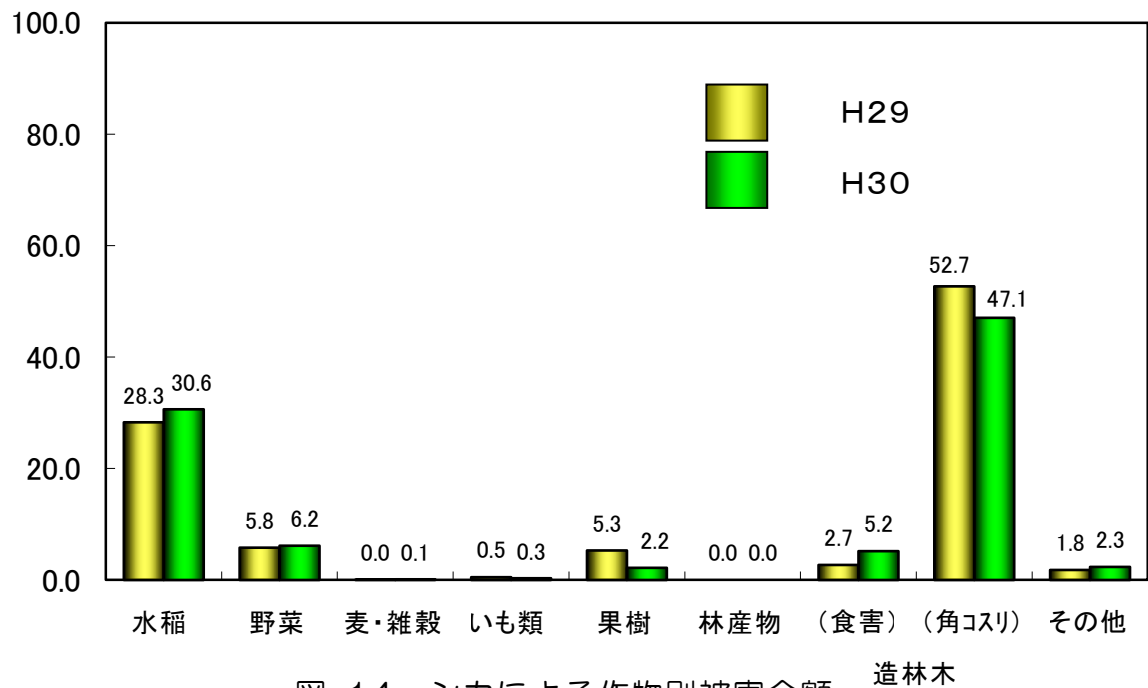


図-14 シカによる作物別被害金額

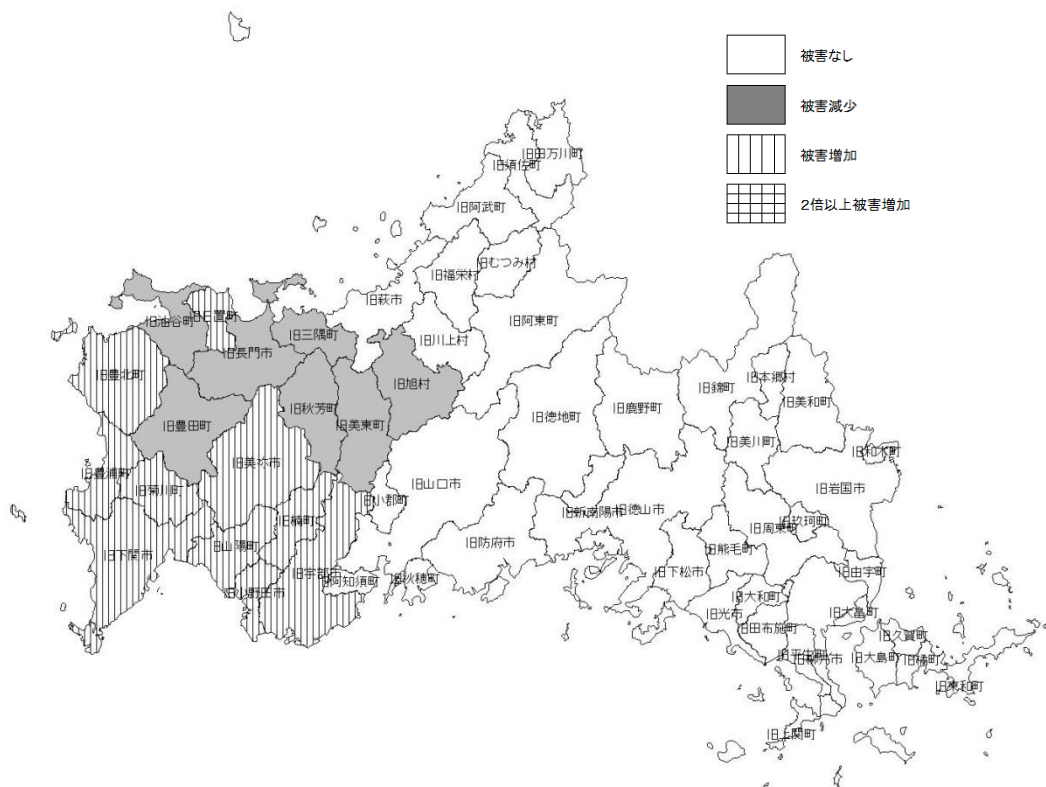


図-15 シカ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

(4) クマ

クマによる被害は平成22年度に大幅に増加し、その後減少傾向にありましたが、平成28年度に増加し、平成30年度は対前年度比7%増の390万円となっています。

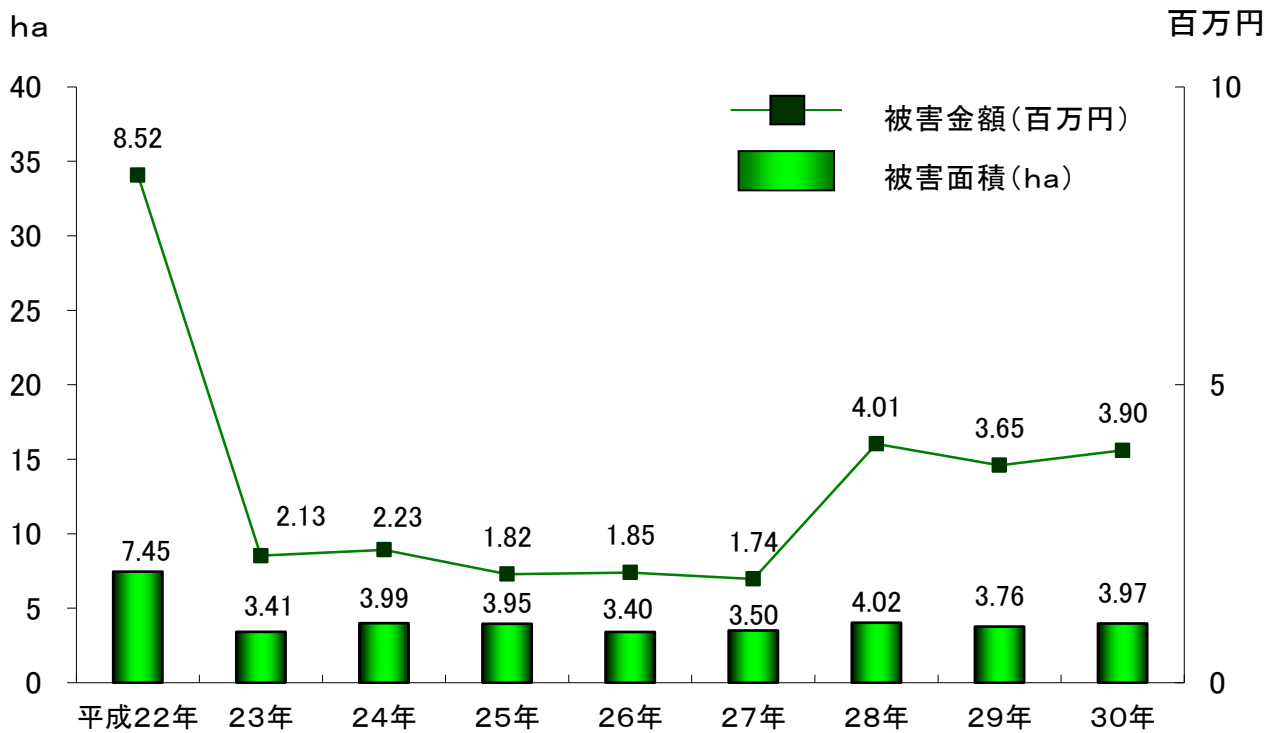


図-16 被害面積及び被害金額の推移 (クマ)

平成30年度の被害作物は、果樹のみとなっています。

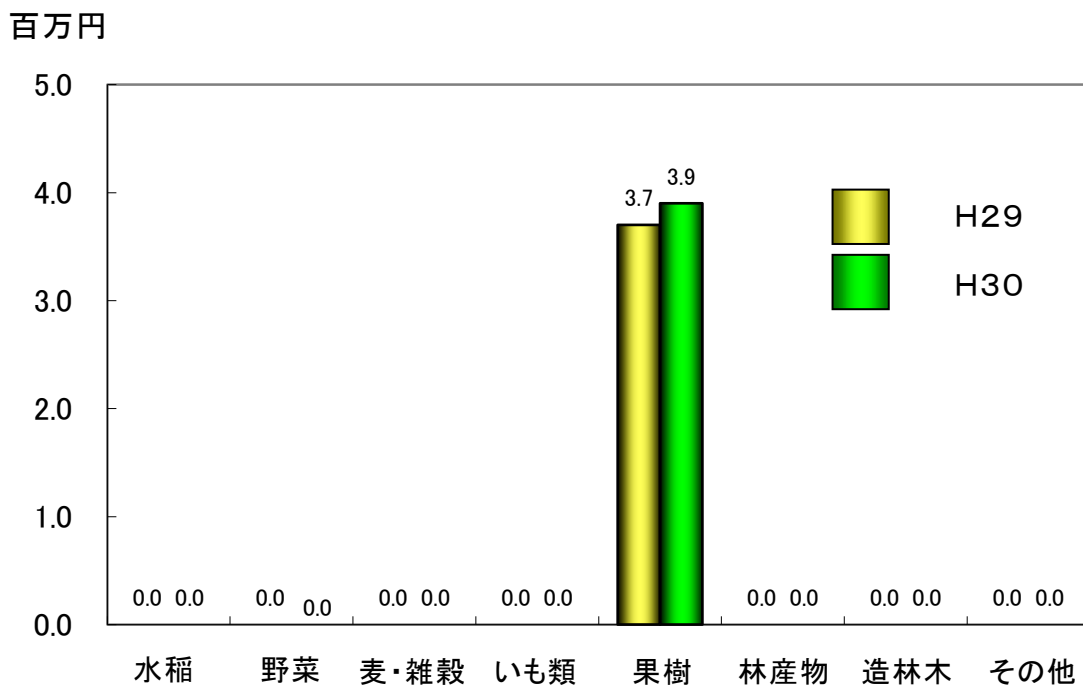


図-17 クマによる作物別被害金額

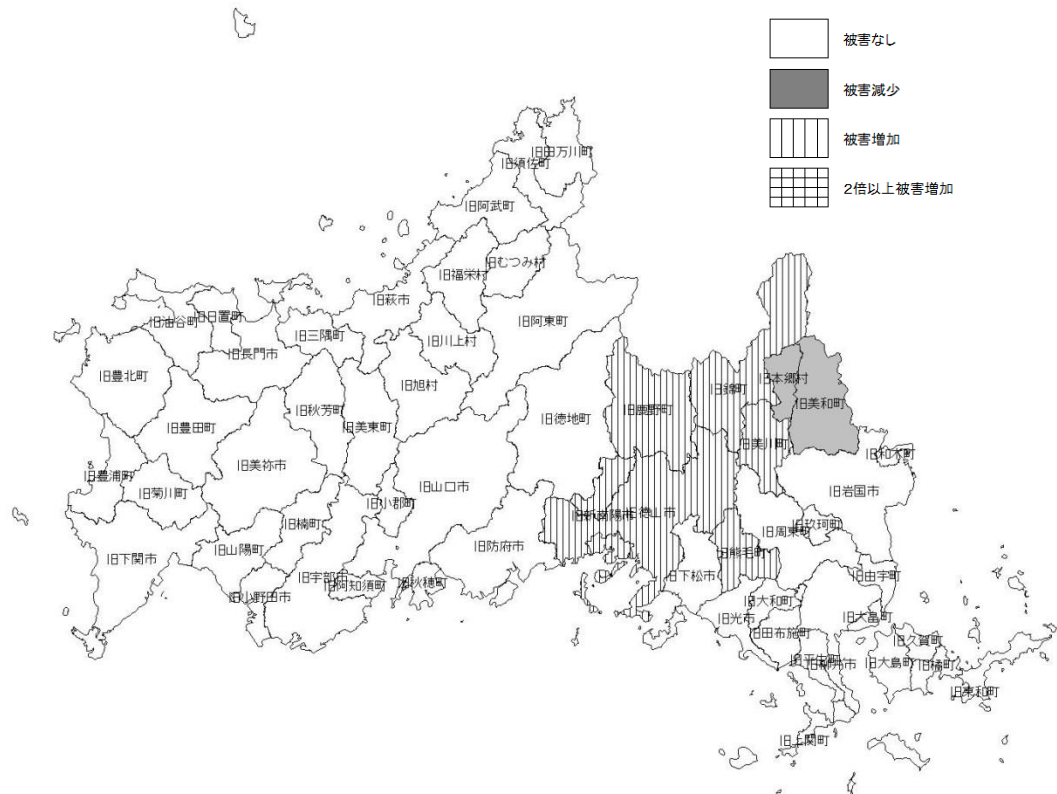


図-18 クマ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

(5) タヌキ

タヌキによる被害は近年ほぼ横ばい傾向でしたが、平成30年度は対前年度比25%減の790万円となっています。

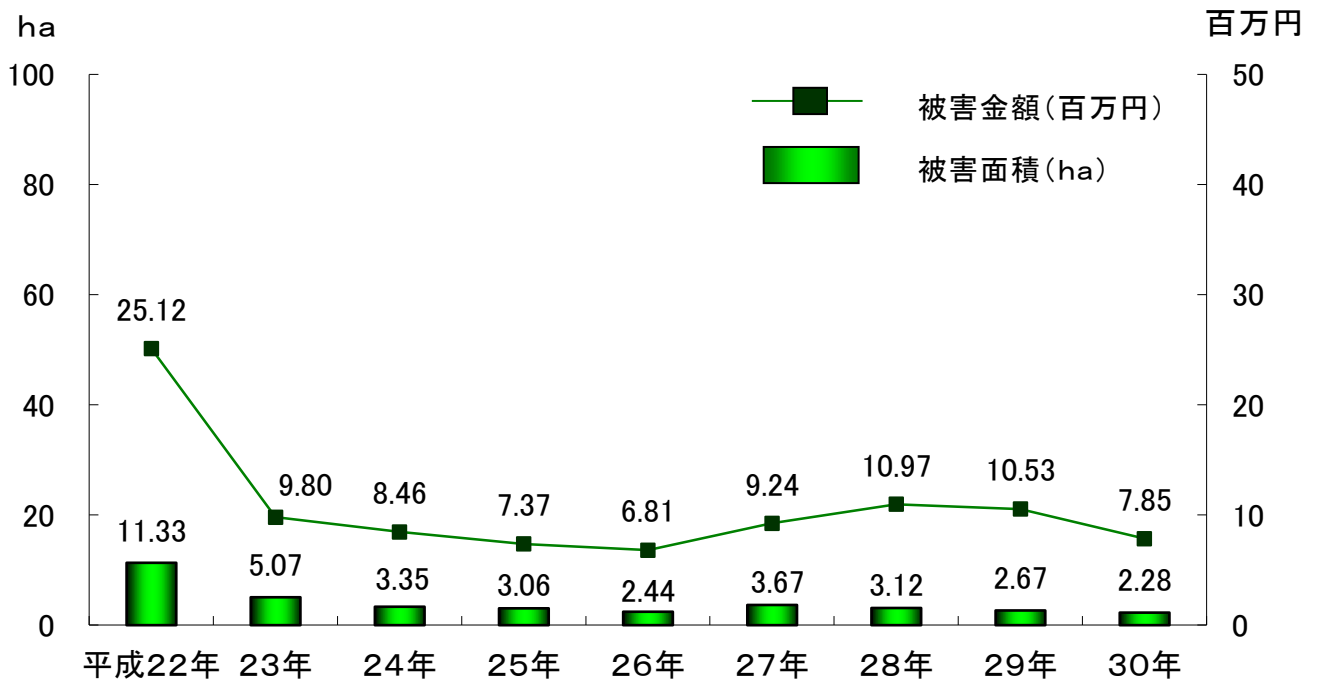


図-19 被害面積及び被害金額の推移 (タヌキ)

作物別の被害金額では、果樹と野菜の被害が同程度で最も大きく、全体の9割以上を占めています。

百万円

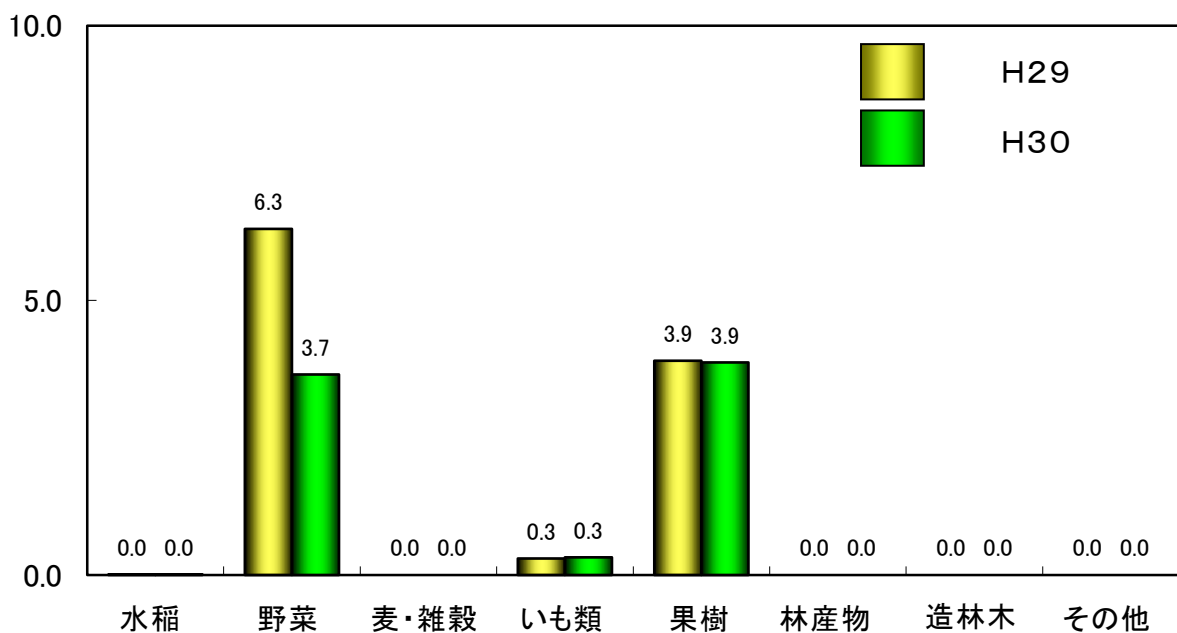


図-20 タヌキによる作物別被害金額

(6) その他の獣類

その他の獣類による平成30年度の被害金額は、対前年度比2.1倍増の1千5百万円となっています。

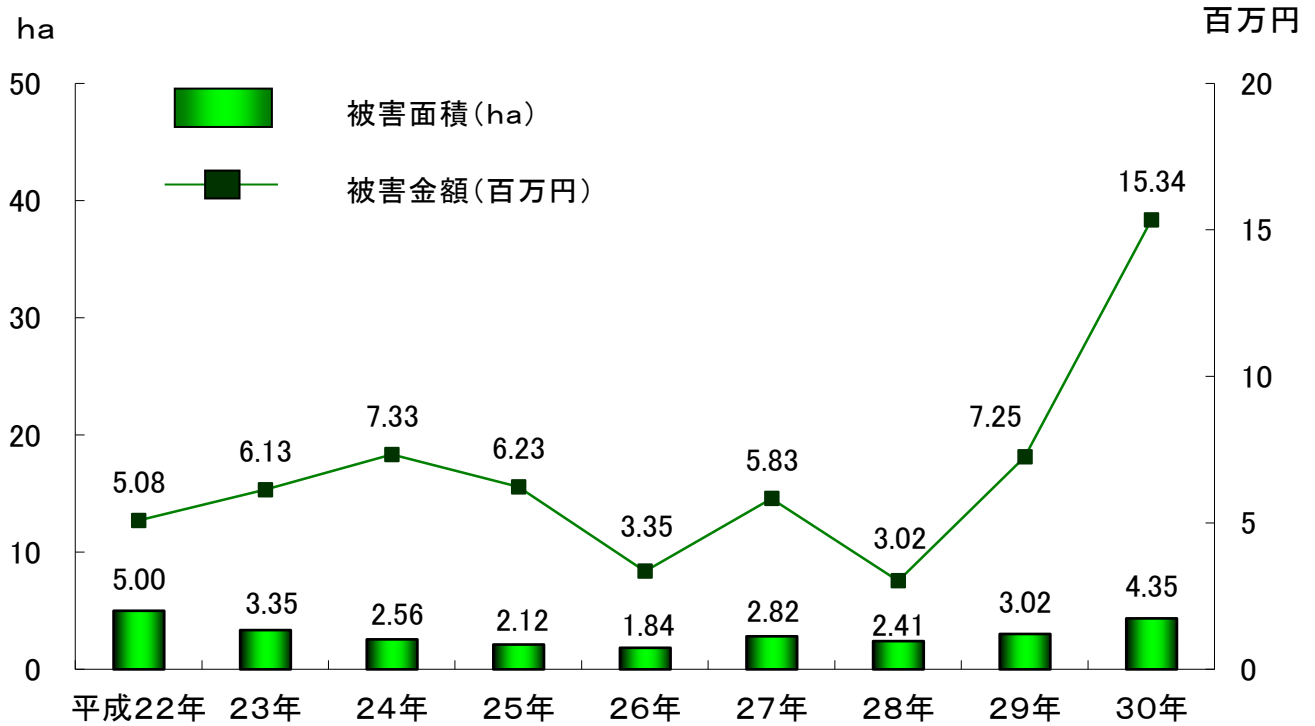


図-21 被害面積及び被害金額の推移（その他獣類）

平成30年度はその他の獣類全ての被害が増加しました。

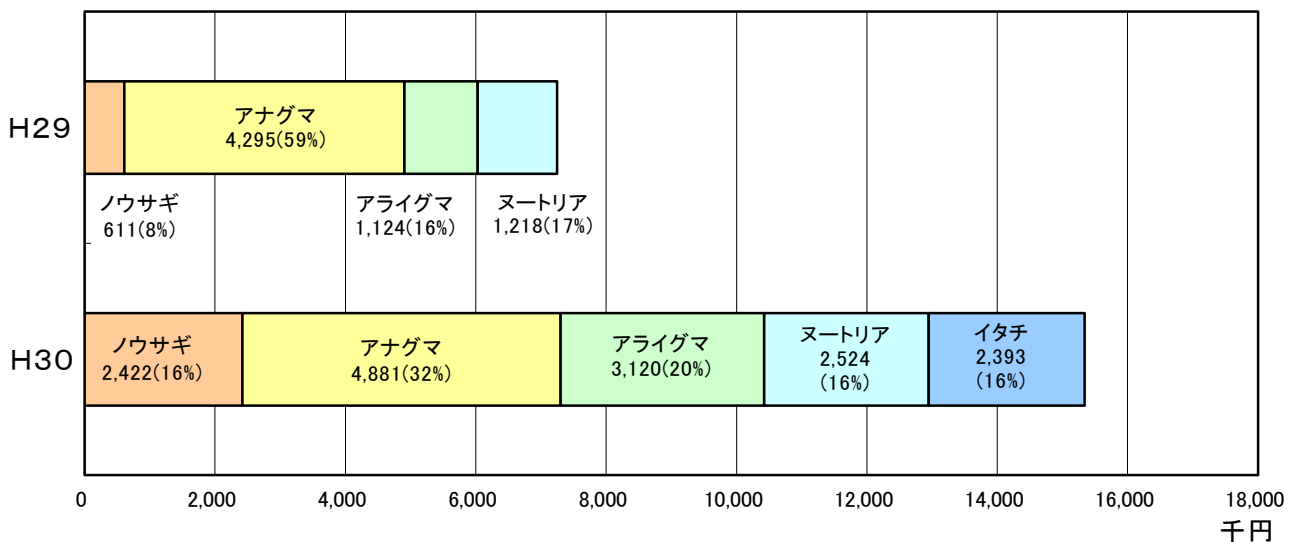


図-22 その他獣類による被害金額の内訳

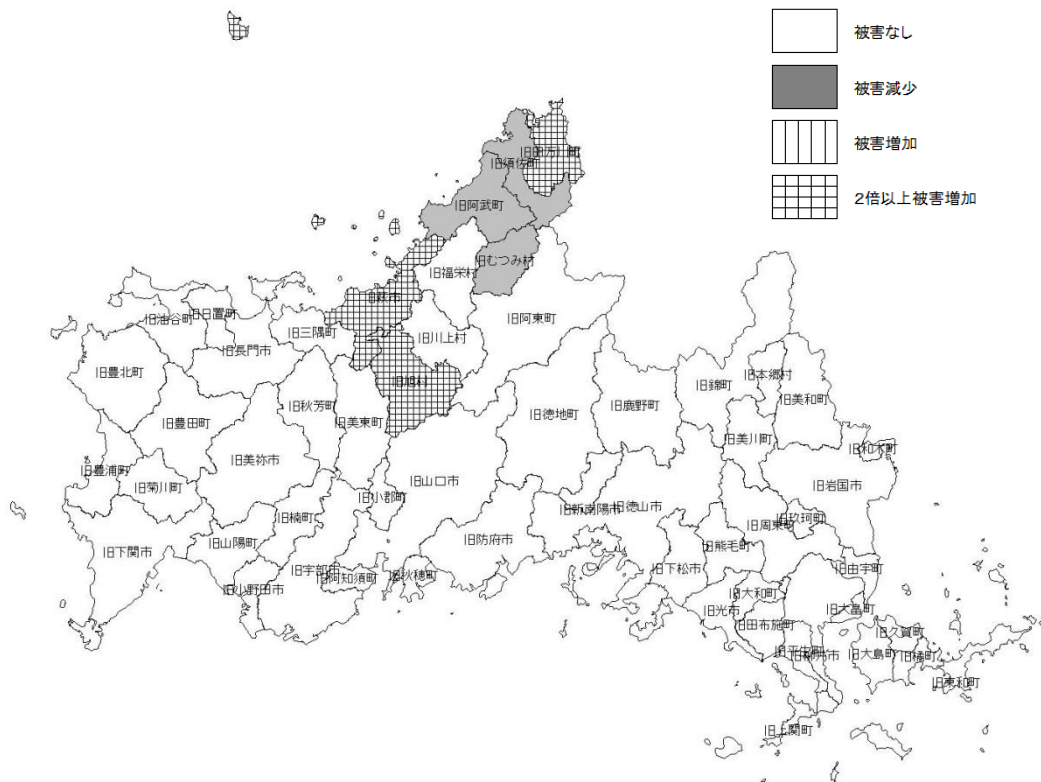


図-23 アライグマ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

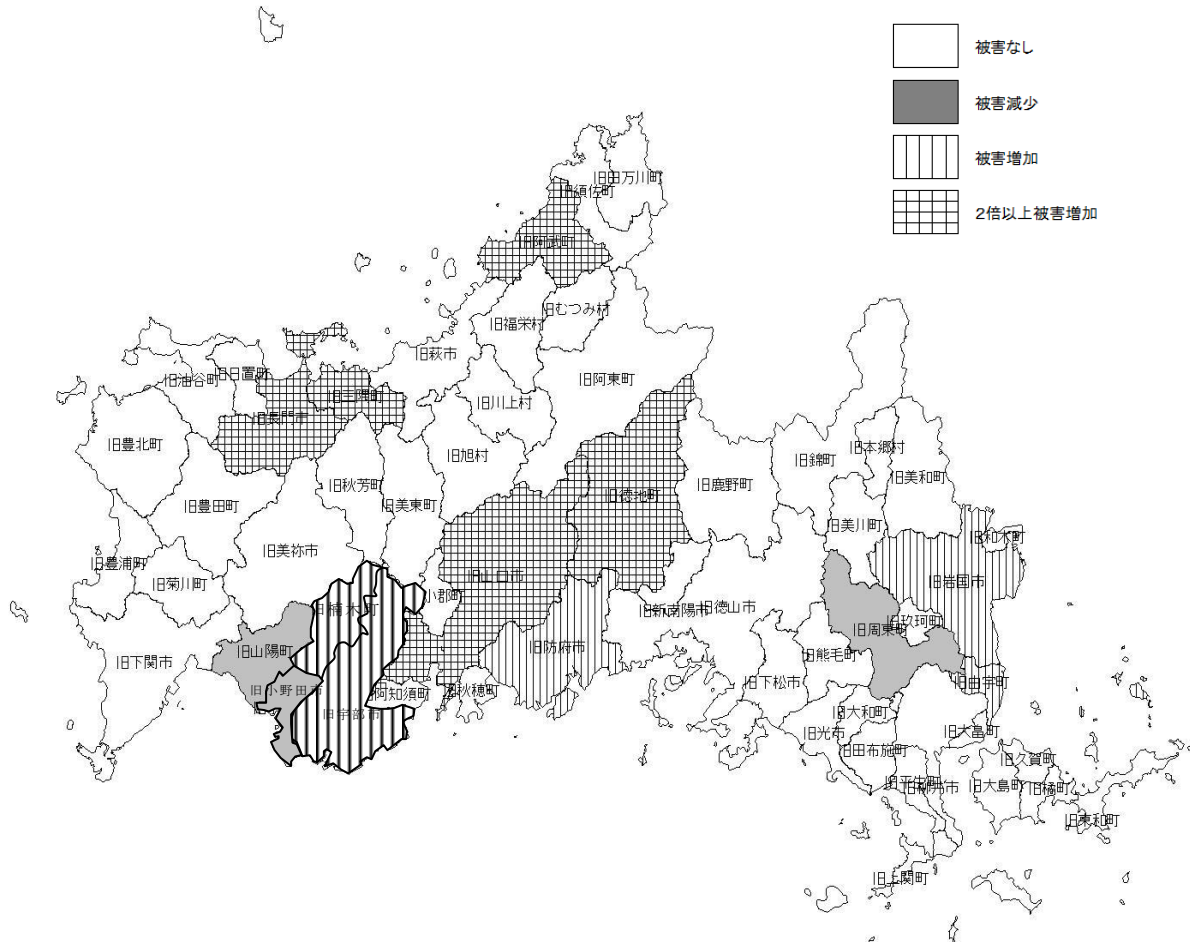


図-24 ノートリア被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

3 鳥類による被害状況

鳥類による平成30年度の被害金額は対前年度比7%減の5千1百万円となっています。

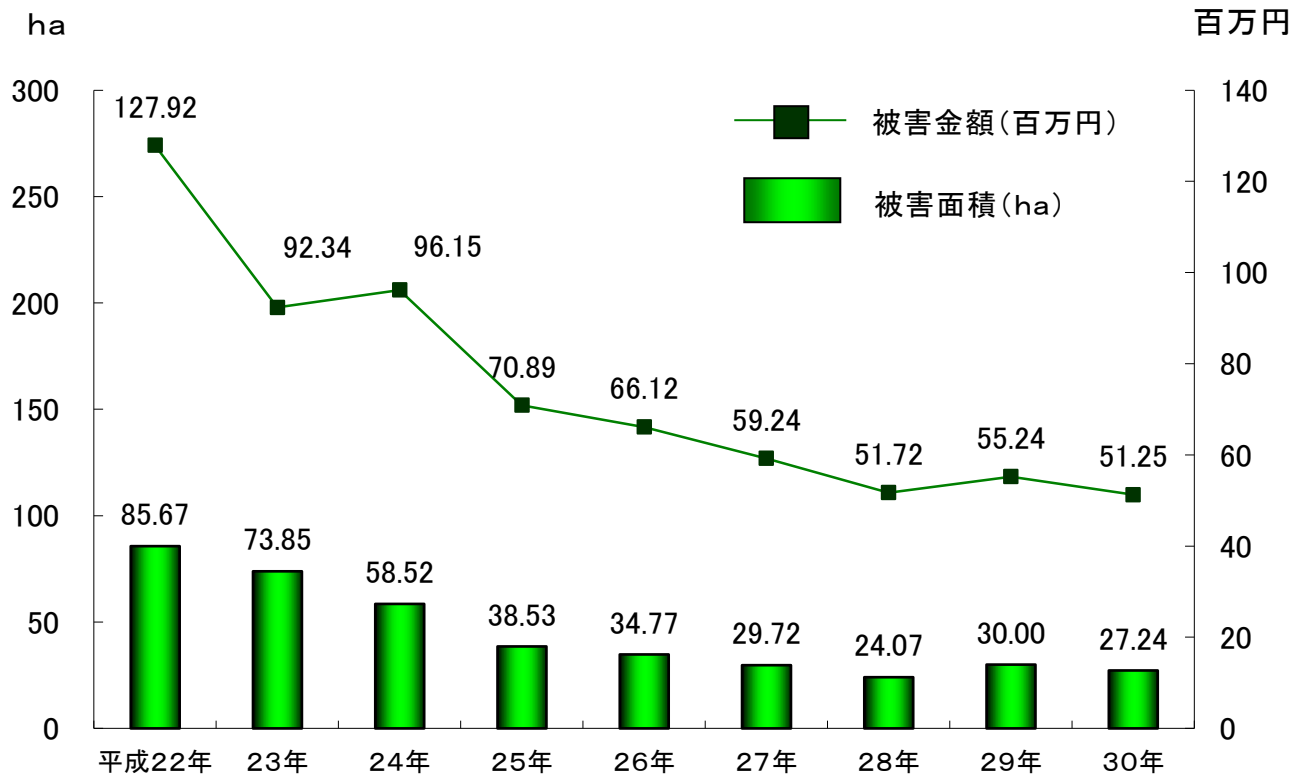


図-25 被害面積及び被害金額の推移（鳥類全体）

全体に占める割合は近年、10%前後で推移しています。

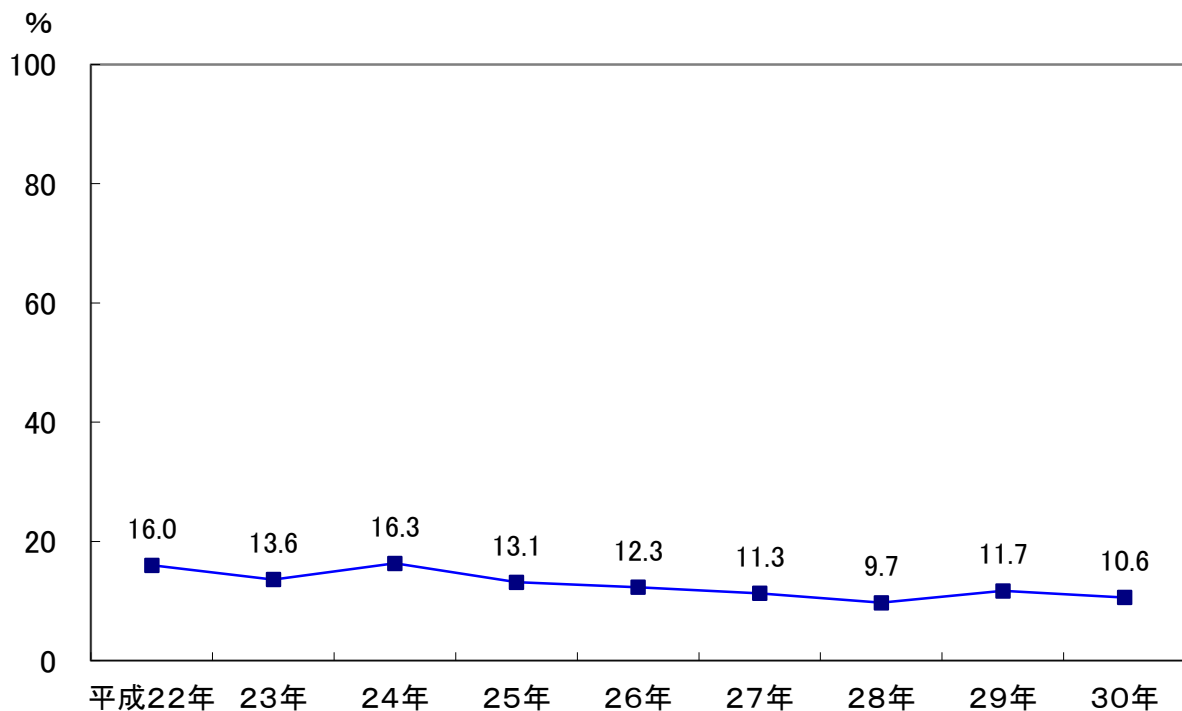


図-26 被害金額全体に占める鳥類被害の割合の推移

ヒヨドリとスズメの被害は減少し、カラスは横ばいとなりました。

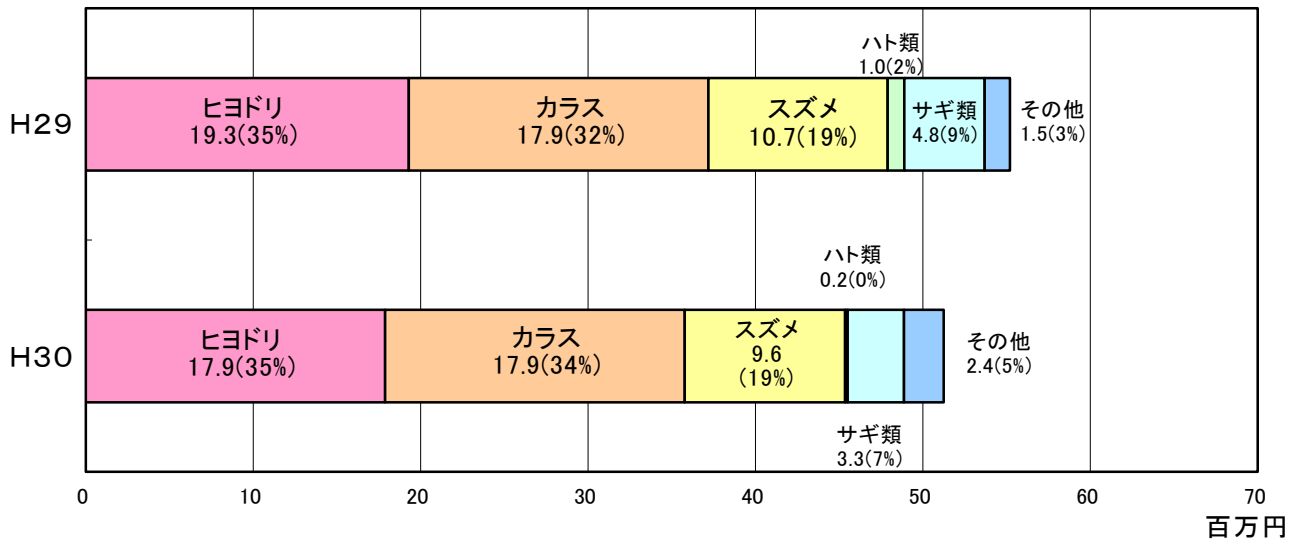


図-27 鳥類の種類別被害の内訳

鳥類の作物別の被害金額では、果樹が最も大きく次いで水稲、野菜となっています。

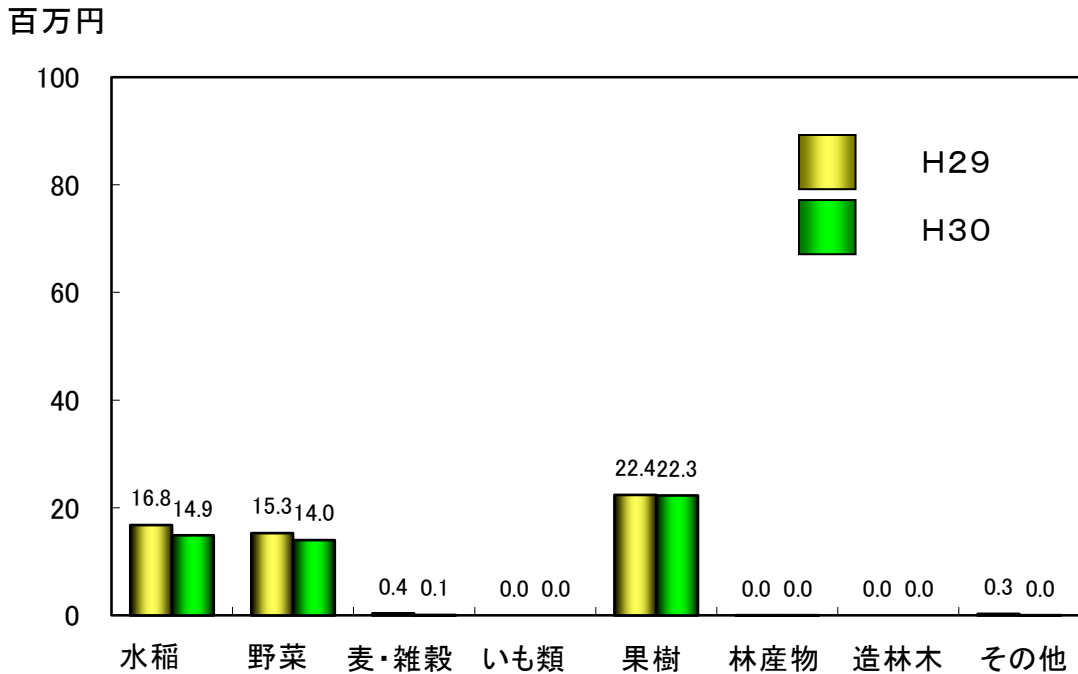


図-28 鳥類による作物別被害金額